



建築科の講話が行われました！

平成30年7月25日（水）に建築科建築コース及び建築設備コースの2年生を対象に、校内研修を行いました。今回は新潟県職業能力開発短期大学校で非常勤講師をされている村尾欣一様より「木をいかす」というテーマで講話をいただきました。実際の建築物の写真やスケッチ、模型などを例にあげながら、木造建築物のありかたや木という材料が持つ特質などを詳しく説明していただきました。昨年の校外学習に引き続きの講話となり、発展的な説明を聞くことができ、生徒にとっても有意義な時間となりました。



講話の様子。メモを取りながら真剣に話を聞いています！



スライドを用いてわかりやすく説明していただきました。

【スキルアップシートより】

- ・電気を減らすためにクーラーを使わない建築物はおもしろいと思った。
- ・100年以上建たせ続けるために木を切る時間や金物を使わないなどの工夫があってすごいと思った。
- ・木造の建築物を建築すると30年ほどで解体する。目に見えてはいないが森が消えることに繋がり、どれだけ木を長持ちさせられるか、そのためにどうしたら良いか考えなくてはならないと思った。
- ・今の日本は家を早く壊して次々作る形だが、それは家も地球も大事にしていなかったと感じた。
- ・木造だからこそできる風通しの良いエアコンのいらぬ住宅がうらやましいと思った。

【生徒の変容と身についた力】

- ・ひとつの住宅を大切に扱い、住み続けることも省エネルギーにつながるという、新たな発想を得ることが出来た。通風や動線の工夫などで住みよい住宅を作り上げ、建築物を設計する段階での省エネルギーの手法があることを学ぶことが出来た。
- ・昔ながらの木造建築物を学び、現代の建築を学ぶ生徒にとって大きな刺激となり、より一層伝統的な木造住宅に対する面白さを感じる事が出来た。

